



資料1

生物多様性ふくおか戦略の 骨子案について

目 次

1. 前回会議のご意見と対応方針
2. 改定戦略の将来像について
3. 戦略体系の見直し
4. 改定戦略の構成について
5. スケジュール

第1回部会 主なご意見

- 「横断的手法」をどう組織立てるかが大切であるものの、全体を見据えた取組の組み立て方、位置づけ、仕立て方については、現段階では「横断的手法」という言葉だけで表現されており、具体的なものが見えないと感じる。
- 基本的方向3の「活かす・つなぐ」は、今ある活動や取組をつなぐことで「知る・学ぶ」「守る、豊かにする」こと、つまり基本的方向1と2の方法になっているのではないか。このため、これら三つを並列することには違和感がある。
- 現行戦略のふりかえりの評価について、改定の方方向性を考えるにあたり、その理由を精査する必要がある。
- 現行戦略のふりかえりから、改定後の基本的方向の1～3の設定までの流れについて整理しているが、理由や取組がどうつながるのかが見えづらい。
- ボトムアップのアクトとしてこれらの取組が重要である一方で、今回の戦略はそれらがどうつながり、どこに向かうのかを示すことが重要である。

対応方針(案)

対応1

基本的方向の見直し

基本的方向3「活かす・つなぐ」を基本的方向1「知る・学ぶ」、基本的方向2「守る・増やす」の達成に向けた横断的な取組とし、「横断的手法」は基本的方向3に包含する。

対応2

戦略体系における関係性・因果関係の再整理

市の将来像や目標実現のため、課題と基本的方向、施策、取組みの結びつき(因果関係)を整理する。

1. 前回会議のご意見と対応方針



現行戦略の取組評価

<指標等>

<指標等の設定理由>

<指標等の分析>

<評価>

基本的方向1 生物多様性やその恵みに関する認識の社会への浸透

【A評価：基準年より増加】

a) 〔ふくおかレジャー〕受講者数（累計）
10人（2015年度）▶ 219人（2024年度）

【B評価：基準年よりほぼ横ばい】

b) 環境関連総合学習の実施校割合
86.9%（2012年度）▶ 81.9%（2024年度）

【C評価：目標未達（R6目標:35%）】

c) 生物多様性を理解し、行動している市民の割合
14.7%（2012年度）▶ 17.7%（2024年度）

a) 自然の重要性を認識できる
人材育成の進捗を示すため

b) 次世代への教育・学習による
施策の進捗を示すため

c) 市民全体の価値観と行動
変容を直接はかるため

a) 周知啓発による制度の認知向上
b) 環境学習の時間や教える人材の
不足

c) 啓発しているものの、自分の生活と
の関係が見えにくいことから理解促進
や行動につながっていない

・環境教育や体験の機
会のさらなる充実が
必要
・市民が生物多様性を
自分事と捉えていな
い

基本的方向2 人と自然の環境を改めて考えながら生物多様性の保全

【B評価：基準年よりほぼ横ばい】

d) 全市域における緑被面積
18,964ha（2012年度）▶ 18,984ha（2022年度）

e) 貴重・希少生物等の確認種数
246種（2018年度）▶ 255種（2023年度）

【C評価：基準年より増加】

f) 特定外来生物の確認種数・定着種数
確認種 11種（2012年度）▶ 19種（2024年度）
定着数 9種（2012年度）▶ 14種（2024年度）

d) 都市環境における自然の量
的な基盤を示すため

e) 地域の生物多様性の質的
な豊かさを示すため

f) 生態系等への影響を示すた
め

d) 市内における緑被率の確保、創出
される緑の増加（公園や緑地）と農
地の減少が相殺

e) 河川改修時の環境配慮など

f) 早期発見・防除が重要であるが、防
除ができていない

・多様な生物の生息
環境のさらなる保全
が必要
・特定外来生物の定
着により、生態系、
人の身体・生命、農
林水産業への被害
が増加

基本的方向3 生物多様性から享受される恵みの持続可能な利用

【A評価：基準年より増加】

g) 直売所数
10箇所（2012年度）▶ 16箇所（2023年度）

【B評価：基準年よりほぼ横ばい】

h) 全市域における緑被面積（再掲）
18,964ha（2012年度）▶ 18,984ha（2022年度）

【C評価：基準年より減少】

i) 藻場面積（今津・能古島・志賀島）
36,000㎡（2012年度）▶ 25,500㎡（2020年度）

g) 地産地消による地域資源
の活用状況を示すため

h) 上記d)に同じ

i) 海の生態系の健全性を示す
ため

g) 地産地消の促進、市民のニーズの
高まり、観光資源としての整備

h) 上記d)に同じ

i) アマモ場の保全活動不足、海水温の
上昇、栄養塩不足など

・海域の生態系の保
全が不十分
・地域産物の需要の
高まりへの対応が必
要

基本的方向4 生物多様性に支えられる文化の継承と創造

【A評価：基準年より増加】

j) 自然の恵み体験活動申込者数
125人（2023年度）▶ 434人（2025年度）

【C評価：基準年より減少】

k) 学校給食への市内産農水産物利用割合
米 21.9%（2015年度）▶ 14.3%（2023年度）
野菜 31.1%（2015年度）▶ 31.8%（2023年度）

l) シロウオの湖上状況（漁獲量）
196kg（2012年度）▶ 0kg※休漁（2023年度）

j) 身近な自然環境を活用した
体験の機会の需要を示すた
め

k) 地産地消による地域資源
の活用状況、食育の推進状
況を示すため

l) ふくおかの食文化の一つであ
り、河川や海の状態を示すた
め

j) 市民等の意識の高まり、毎回定員を
超える申込みあり

k) 天候不良や病害虫の影響による安
定供給の難しさ、価格とのミスマッチ

l) 生息環境の変化などによる資源量の
減

・自然体験・学習の需
要の高まりへの対応
が必要
・市内産農水産物など
の自然の恵みの減少

基本的方向5 より広域な視野をもちながら地域の生物多様性を支える多様な主体や地域との連携

【A評価：基準年より増加】

m) 水源の森づくり共働事業協定団体数
2団体（2012年度）▶ 6団体（2024年度）

【B評価：基準年よりほぼ横ばい】

n) まちもーむ等での交流会等イベント参加人数
84人（2019年度）▶ 85人（2024年度）

【C評価：基準年より減少】

o) 室見川水系一斉清掃への参加人数
4,188人（2012年度）▶ 3,445人（2024年度）

m) 多様な主体による自然保
全の連携状況を示すため

n) 多様な主体が集い、学び、
つながる場の活性度を示すた
め

o) 地域の連携と環境意識の
広がりを示すため

m) 企業のCSR等への意識の高まり、
NPOや市民等の意識の高まり

n) イベント参加団体の固定化

o) 地域住民の高齢化、地域とのつな
がりの希薄化

・連携促進のための施
策が不十分
・多様な主体による活
動の規模が縮小

課題

今後の施策の方向性

生物多様性
の重要性への
認識と生活と
のつながりの
理解を高める

生きものの生
息・生育環境
を保全し回復
させる

農村漁村の
多面的機能
を保全する

実践行動を
後押し・促進
する

基本的方向1 「知る・学ぶ」

(1) 生物多様性の重要性の
社会への浸透

(2) 生物多様性に関する
調査やモニタリングの
実施

(3) 企業における生物多
様性への配慮の推進

基本的方向2 「守る・増やす」

(1) 多様な生きものの
生息・生育環境の
保全・創出

(2) 外来種による被害
防止

(3) ふくおかの貴重・希少
種等の保全

基本的方向3 「活かす・つなぐ」

(1) ふくおかの自然の恵み
の活用

(2) 多様な主体の連携の
推進

(3) 3分野の統合的推進

対応
1

基本的方向の見直し

対応2

戦略体系における関係性・因果関係の再整理（6頁以降で詳述）

2.改定戦略の将来像について



2050年将来像(案)

- 「2050年将来像」は、現行戦略の「100年目標」も参考とし、「自然を未来につなぐ」ということを主眼に案を作成した。

(案) 自然の恵みに感謝し、未来へ受け継ぎ、

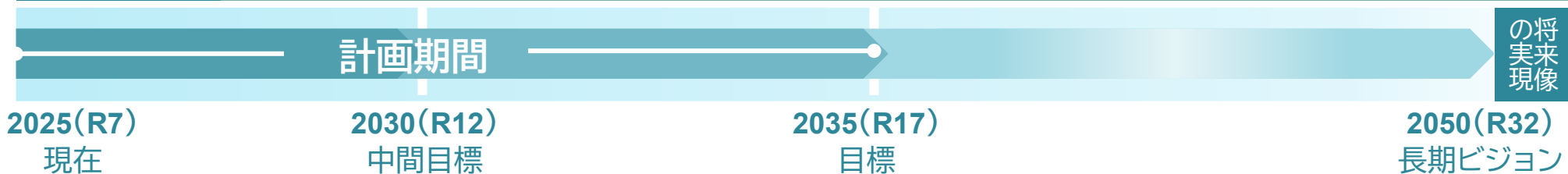
人と自然が調和した持続可能な暮らしを営む都市ふくおか

福岡市は、博多湾や脊振山をはじめとした豊かな自然と穏やかな風土に恵まれ、魅力ある景観と快適な生活基盤、充実した都市機能がコンパクトに整っている都市です。

近年、都市化の進展等により自然環境の質が変化しており、生きものの生息・生育に適した自然環境が失われつつあります。私たちの生活は自然の恵みの上に成り立っており、今、一人ひとりが自然との関係性を改めて意識する必要があります。

そのため、自然の恵みを理解、感謝し、将来に受け継ぐための行動を起こすこと、身近に自然を感じ、心豊かな暮らし(ウェルビーイング)を実現することで、人と自然が共生し豊かに発展していく都市を目指します。

目標の期間 2050(令和32)年を長期ビジョンとした2030(令和12)年を中間目標、2035(令和17)年を目標とする10年計画





【ひと】

自然に寄り添い、その恵みを
持続的に利用しています

- 豊かな暮らしが生物多様性の恵みによって成り立っていることを理解し、多くの人の手によって身近な自然や生きものが守られています。
- 地産地消や旬を意識した消費行動など、環境に配慮したエシカル消費が主流化しています。
- 自然資本の価値を認識し、豊かな自然や生きものとふれあう体験やエコツーリズムなどが盛んになっています。

【しごと】

あらゆる企業が生物多様性に
配慮した事業を展開しています

- 地域の生態系の保全や30by30目標の達成への貢献など、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現に向けた活動に積極的に取り組んでいます。
- 食料や商品、材料の調達に当たっては、持続可能で環境負荷の低い経済活動が行われています。
- 環境ラベルの取得や未利用材の活用など、環境負荷低減に資する商品やサービスの開発に率先して取り組んでいます。

【まち】

人と自然が共生した選ばれる
まちづくりが進んでいます

- 生態系に配慮した花や緑、親水空間にあふれ、質の高い生活空間やビジネス環境が実現しています。
- 森林や農地、都市内緑地や博多湾など、生きものの生息・生育環境のつながりを意識した生物多様性の回復・創出が図られています。
- 自然が有する調整機能を活かした防災・減災や、森林保全による炭素吸収への貢献など、生態系を活用した持続可能なまちづくりが行われています。

3.戦略体系の見直し



基本的方向1「知る・学ぶ」

現行戦略の評価・課題

- ・ 環境教育や体験の機会のさらなる充実が必要
- ・ 市民が生物多様性を自分事と捉えていない
- ・ 自然体験・学習の需要の高まりへの対応が必要



生物多様性の重要性への
認識と生活とのつながりの
理解を高める

基本的方向

生物多様性の保全の重要性について
知る・学ぶ

基本施策

生物多様性の重要性の社会
への浸透

指標案

生物多様性の意味を理解し、
その保全につながる行動を
している市民の割合

生物多様性に関する調査や
モニタリングの実施

指標案

市民参加型モニタリングの
参加者数

企業における生物多様性への
配慮の推進

指標案

環境に配慮した活動を行う
企業が増えていると思う市
民の割合

取り組み例

多彩な市民参加型イベントの開催

環境教育プログラム・人材育成の
拡充・充実

生物多様性ふくおかセンターの一新

市民参加型モニタリングの実施

博多湾や河川の環境モニタリングの
実施

大学・NPO等と連携した生物多様性に
関する調査・研究の実施

生物多様性を意識した事業活動に
関する普及啓発

エシカル消費の推進

3.戦略体系の見直し



基本的方向1「知る・学ぶ」

基本的方向

基本施策

成果指標案

参考指標案

生物多様性の保全の重要性について
知る・学ぶ

生物多様性の重要性の 社会への浸透

(取組み例)

- ・多彩な市民参加型イベントの開催
- ・環境教育プログラム・人材育成の
拡充・充実
- ・生物多様性ふくおかセンターの一新

○生物多様性の意味を理解し、その
保全につながる行動をしている
市民の割合

【R6:28.2%】/目標R17:50%

【選定理由】

生物多様性の社会への浸透度合い
を表すため

・環境総合学習の実施校割合
【R6:81.9%】/目標R〇:〇

・「ふくおかレンジャー」受講者数
【R6:219人(累計)】/目標R17:370人

・「自然の恵み体験」申込者数
【R7:434人】/目標R17:800人

生物多様性に関する調査や モニタリングの実施

(取組み例)

- ・市民参加型モニタリングの実施
- ・博多湾や河川の環境モニタリングの
実施
- ・大学・NPO等と連携した生物多様性
に関する調査・研究の実施

○市民参加型モニタリングの参加者数
【R6:258人】/目標R17:1,000人

【選定理由】

市民の生物多様性保全への関心の
度合いを表すため

・市と大学・NPO等が連携して実施した生物
多様性に関する調査・研究の実施状況
【R6:2件】/目標R17:4件

企業における生物多様性 への配慮の推進

(取組み例)

- ・生物多様性を意識した事業活動に
関する普及啓発
- ・エシカル消費の推進

○環境に配慮した活動を行う企業が
増えていると思う市民の割合

【R6:76.8%】/目標R17:86.6%

【選定理由】

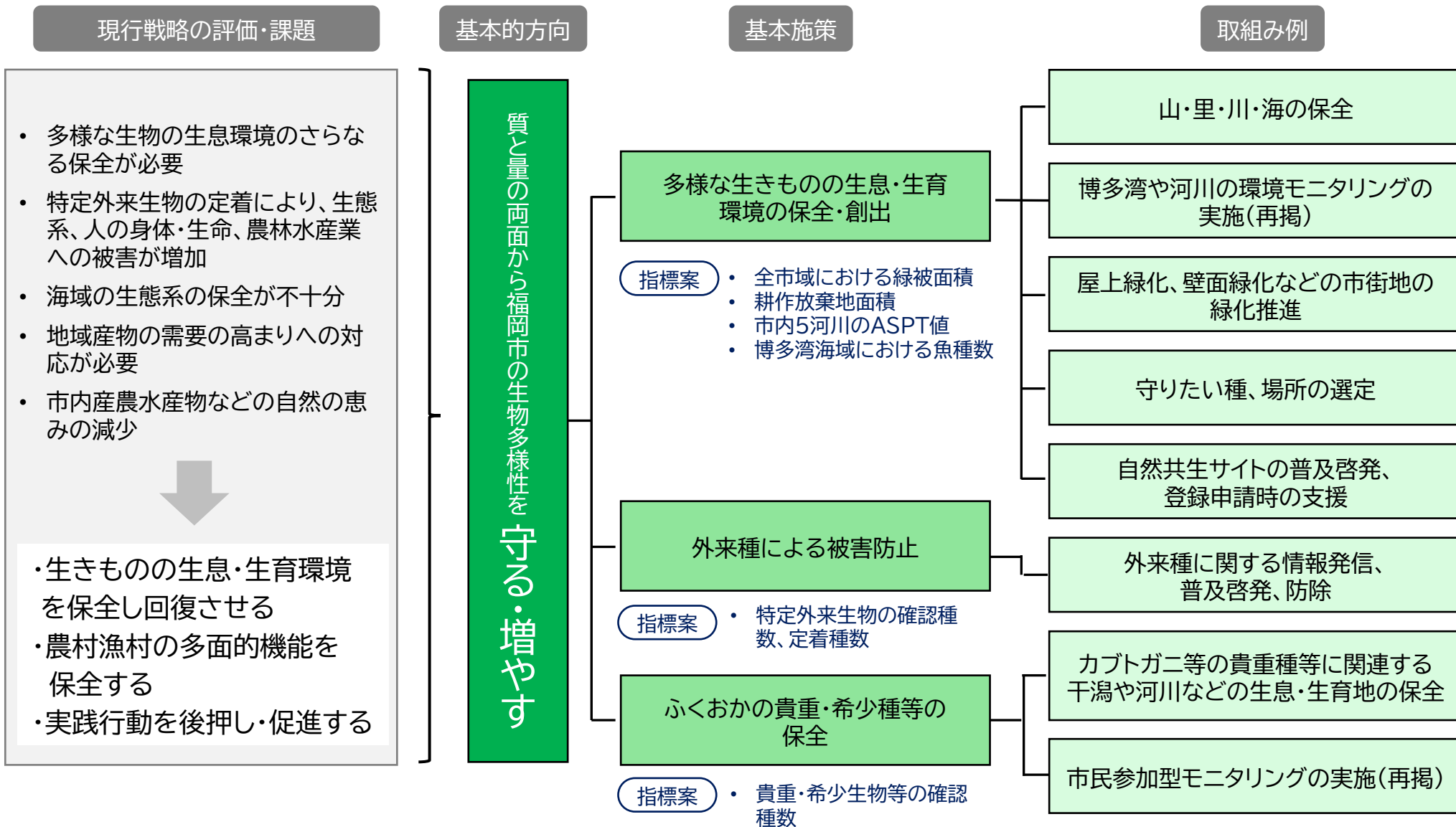
企業による生物多様性へ配慮した
事業の浸透度合いを表すため

・生物多様性の意味を理解し、その保全に
つながる行動をしている市民の割合(再掲)
【R6:28.2%】/目標R17:50%

3.戦略体系の見直し



基本的方向2「守る・増やす」



3.戦略体系の見直し



基本的方向2「守る・増やす」

基本的方向

基本施策

成果指標案

参考指標案

質と量の両面から福岡市の生物多様性を
守る・増やす

多様な生きものの生息・生育 環境の保全・創出

(取組み例)

- ・山・里・川・海の保全
- ・博多湾や河川の水環境モニタリングの実施(再掲)
- ・屋上緑化、壁面緑化などの市街地の緑化推進
- ・守りたい種、場所の選定
- ・自然共生サイトの普及啓発、登録申請時の支援

- 全市域における緑被面積【R4:18,984ha】/
目標R16:18,984ha以上
- 耕作放棄地面積【R6:321ha】/
目標R8:325ha
- 市内5河川のASPT値
【室見川 R4:7.0、樋井川 R3:6.2、
那珂川 R1:6.2、御笠川 R2:5.9、
多々良川 R5:7.0】/目標R17:現状維持
- 博多湾海域における魚種数
【R6:69種】/目標R17:現状維持
【選定理由】
森里川海の水環境保全状況を表すため

- ・都市部における緑被面積
【R4:100ha】/目標R16:102ha
- ・博多湾の水質の水環境基準達成状況
【COD 2/8地点、T-N 2/3海域、
T-P 全3海域】/目標R17:現状維持
- ・水源の森づくり団体が活動する水源涵養
林の面積
【R6:7.56ha】/目標R〇:〇
- ・自然共生サイトの認定件数(延べ)
【R6:0件】/目標R17:5件

外来種による被害防止

(取組み例)

- ・外来種に関する情報発信、普及啓発、
防除

- 特定外来生物の確認種数、定着種数
【R6:19種(確認)、14種(定着)】
/目標R17:現状維持
【選定理由】
特定外来生物の生息状況を表すため

- ・アライグマの目撃報告数
【R6:146件】/目標R17:現状維持

ふくおかの貴重・希少種等の 保全

(取組み例)

- ・カブトガニ等の貴重種等に関連する
干潟や河川などの生息・生育地の
保全
- ・市民参加型モニタリングの実施(再掲)

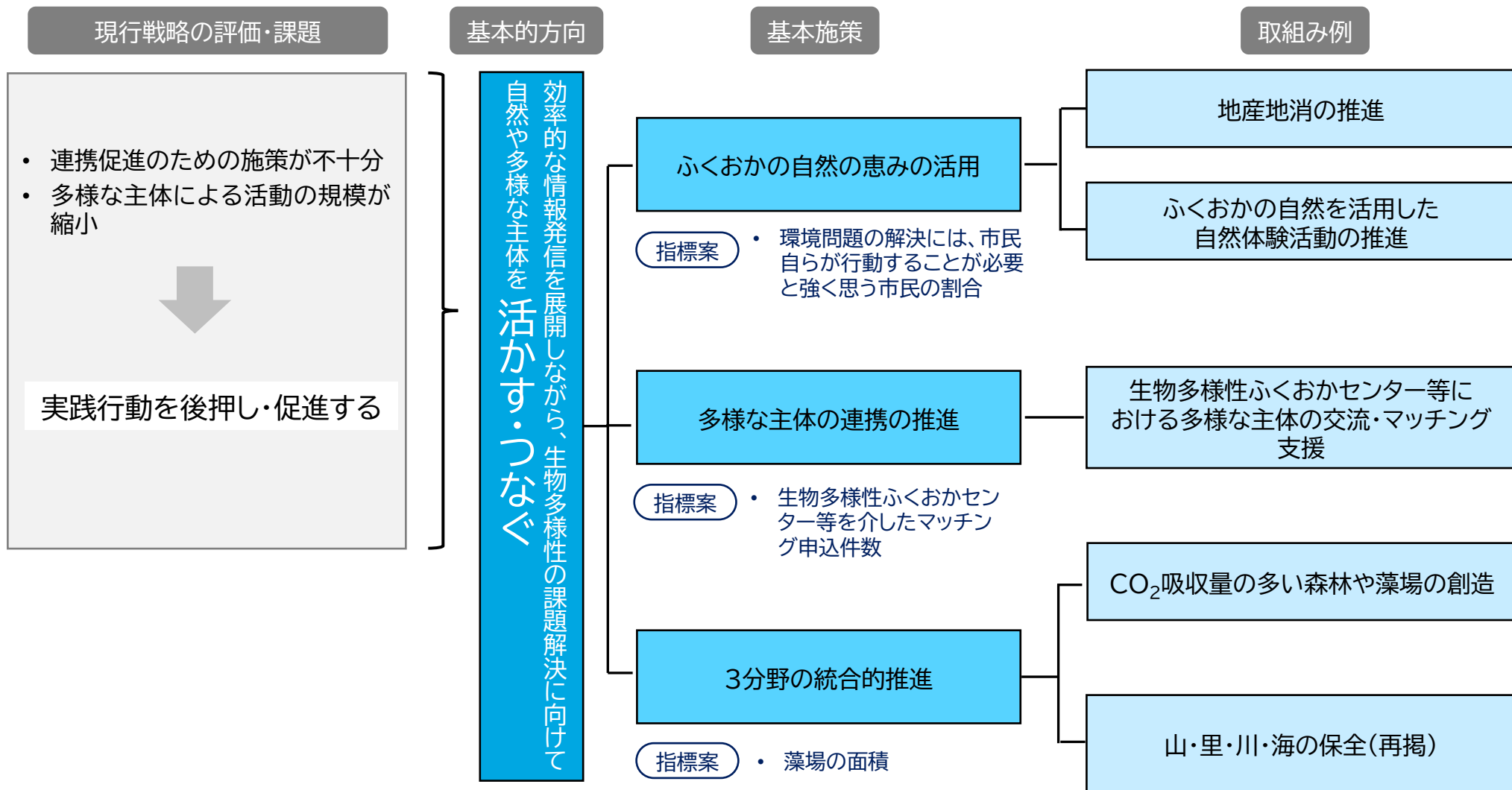
- 貴重・希少生物等の確認種数
【R5:255種】/目標R17:増加
【選定理由】
貴重・希少生物等の生息状況を表すため

- ・カブトガニ産卵数、幼生数、成体・亜成体
の個体数
【R6:卵塊数33卵塊、幼生数41個体、
亜成体個体数40個体、
成体個体数105個】
/目標値R17:現状維持

3.戦略体系の見直し



基本的方向3「活かす・つなぐ」



3.戦略体系の見直し



基本的方向3「活かす・つなぐ」

基本的方向

基本施策

成果指標案

参考指標案

効率的な情報発信を展開しながら、生物多様性の課題解決に向けて
自然や多様な主体を **活かす・つなぐ**

ふくおかの自然の恵みの活用

- (取組み例)
- ・地産地消の推進
 - ・ふくおかの自然を活用した自然体験活動の推進

○環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合
【R6:90.8%】/目標R17:94.7%
【選定理由】
主体的な行動意識の有無が活用の度合いを間接的に表すため

- ・市公共施設の木材使用量における地域産木材利用割合
【R6:32.0%】/目標R8:5.0%
- ・室見川河口干潟のアサリ推定資源量
【R6:122.7t】/目標R8:136t
- ・学校給食への市内産農水産物利用割合
【R6:26.5%(野菜)】/目標R8:32.4%
- ・脊振少年自然の家、海の中道青少年の家利用者数
【R6:73,645人】/目標R11:87,500人

多様な主体の連携の推進

- (取組み例)
- ・生物多様性ふくおかセンター等における多様な主体の交流・マッチング支援

○生物多様性ふくおかセンター等を介したマッチング申込件数
【R6:2件】/目標R17:5件
【選定理由】
多様な主体間の連携の度合いを表すため

- ・生物多様性ふくおかセンターにおける各主体の取組掲載数
【R6:4件】/目標R17:100件

3分野の統合的推進

- (取組み例)
- ・CO₂吸収量の多い森林や藻場の創造
 - ・山・里・川・海の保全(再掲)

○藻場の面積
【R5:419.4ha】/
目標R17:現状維持
【選定理由】
藻場は生物多様性の保全につながり、CO₂の吸収源となりうるため

- ・市公共施設の木材使用量における地域産木材利用割合(再掲)
【R6:32.0%】/目標R8:5.0%
- ・ラブアースクリーンアップ参加人数
【R6:24,298人】/目標R17:増加
- ・室見川水系一斉清掃参加人数
【R6:3,445人】/目標R〇:〇

3.戦略体系の見直し



改定生物多様性ふくおか戦略の施策体系(案)

基本的方向	基本施策	成果指標	取組み例
基本的方向1 「知る・学ぶ」	(1)生物多様性の重要性の社会への浸透	○生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合	①多彩な市民参加型イベントの開催 ②環境教育プログラム・人材育成の拡充・充実 ③生物多様性ふくおかセンターの一新
	(2)生物多様性に関する調査やモニタリングの実施	・市民参加型モニタリングの参加者数	①市民参加型モニタリングの実施 ②博多湾や河川の環境モニタリングの実施 ③大学・NPO等と連携した生物多様性に関する調査・研究の実施
	(3)企業における生物多様性への配慮の推進	・環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合	①生物多様性を意識した事業活動に関する普及啓発 ②エシカル消費の推進
基本的方向2 「守る・増やす」	(1)多様な生きものの生息・生育環境の保全・創出	・全市域における緑被面積 ・耕作放棄地面積 ・市内5河川のASPT値 ・博多湾海域における魚種数	①山・里・川・海の保全 ②博多湾や河川の環境モニタリングの実施(再掲) ③屋上緑化、壁面緑化などの市街地の緑化推進 ④守りたい種、場所の選定 ⑤自然共生サイトの普及啓発、登録申請時の支援
	(2)外来種による被害防止	・特定外来生物の確認種数、定着種数	①外来種に関する情報発信、普及啓発、防除
	(3)ふくおかの貴重・希少種等の保全	○貴重・希少生物等の確認種数	①貴重種等に関連する干潟や河川などの生息・生育地の保全 ②市民参加型モニタリングの実施(再掲)
基本的方向3 「活かす・つなぐ」	(1)ふくおかの自然の恵みの活用	・環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合	①地産地消の推進 ②ふくおかの自然を活用した自然体験活動の推進
	(2)多様な主体の連携の推進	・生物多様性ふくおかセンター等を介したマッチング申込件数	①多様な主体の交流・マッチング支援
	(3)3分野の統合的推進	・藻場の面積	①CO ₂ 吸収量の多い森林や藻場の創造 ②山・里・川・海の保全(再掲)

4.改定戦略の構成について



目次構成

第1章 戦略の概要	1. 戦略の位置づけ 2. 計画期間 3. 対象地域	<主な改定箇所> ・ 基本情報を更新する。
第2章 改定の背景	1. 上位計画の動き 2. 国際・国内動向 3. 福岡市を取り巻く状況 4. 現行戦略の評価 5. 戦略改定の視点	<主な改定箇所> ・ 国内外の情勢の変化や福岡市を取り巻く変化を整理する。 ・ 現状・課題の分析を踏まえて現行戦略を評価し、戦略改定の視点を明確にする。
第3章 戦略の全体像	1. 目指す将来像 2. 戦略の目標 3. 基本的方向	<主な改定箇所> ・ 将来像は現行戦略の「100年目標」を参考とし、福岡市環境基本計画(第四次)の「2050年の理想の環境都市像」を見据えたものとする。 ・ 時代の潮流や市を取り巻く状況を踏まえ、新たな基本的方向を整理する。
第4章 施策体系	1. 施策体系 2. 施策の内容	<主な改定箇所> ・ 現行戦略の評価から導き出された課題の対応に向けた施策を設定する。
第5章 戦略の推進	1. 各主体の役割 2. 推進体制 3. 進行管理	<主な改定箇所> ・ 施策の成果が把握できる指標を設定する。

4.改定戦略の構成について



改定生物多様性ふくおか戦略の全体像

【第1章】

戦略の概要

- 「生物多様性基本法」第13条に定められた生物多様性地域戦略
- 「福岡市環境基本条例」に基づく「福岡市環境基本計画(第四次)」の部門別計画
- 2050(令和32)年を長期ビジョンとした2030(令和12)年を中間目標、2035(令和17)年を目標とする10年計画

【第2章】

改定の背景

- 生物多様性国家戦略2023-2030、第六次環境基本計画、福岡市環境基本計画(第四次)等新たな上位計画の策定
- 新たな生物多様性国際目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の採択とネイチャーポジティブの推進
- 福岡市を取り巻く状況(開発による緑地の減少、第一次産業の衰退、市民・事業者の生物多様性への関心不足等)

【第3章】

戦略の全体像

2050年
将来像
案

自然の恵みに感謝し、未来へ受け継ぎ、

人と自然が調和した持続可能な暮らしを営む都市ふくおか

【第4章】

施策体系

基本的方向1「知る・学ぶ」

生物多様性の
重要性の社会
への浸透

生物多様性に関
する調査やモニタ
リングの実施

企業における
生物多様性への
配慮の推進

基本的方向2「守る・増やす」

多様な生きもの
の生息・生育環
境の保全・創出

外来種による
被害防止

ふくおかの
貴重・希少種等
の保全

基本的方向3「活かす・つなぐ」

ふくおかの自然の
恵みの活用

多様な主体の連携の
推進

3分野の統合的推進

【第5章】

戦略の推進

推進
体制

福岡市環境審議会
環境保全・創造部会

点検評価

進行
管理

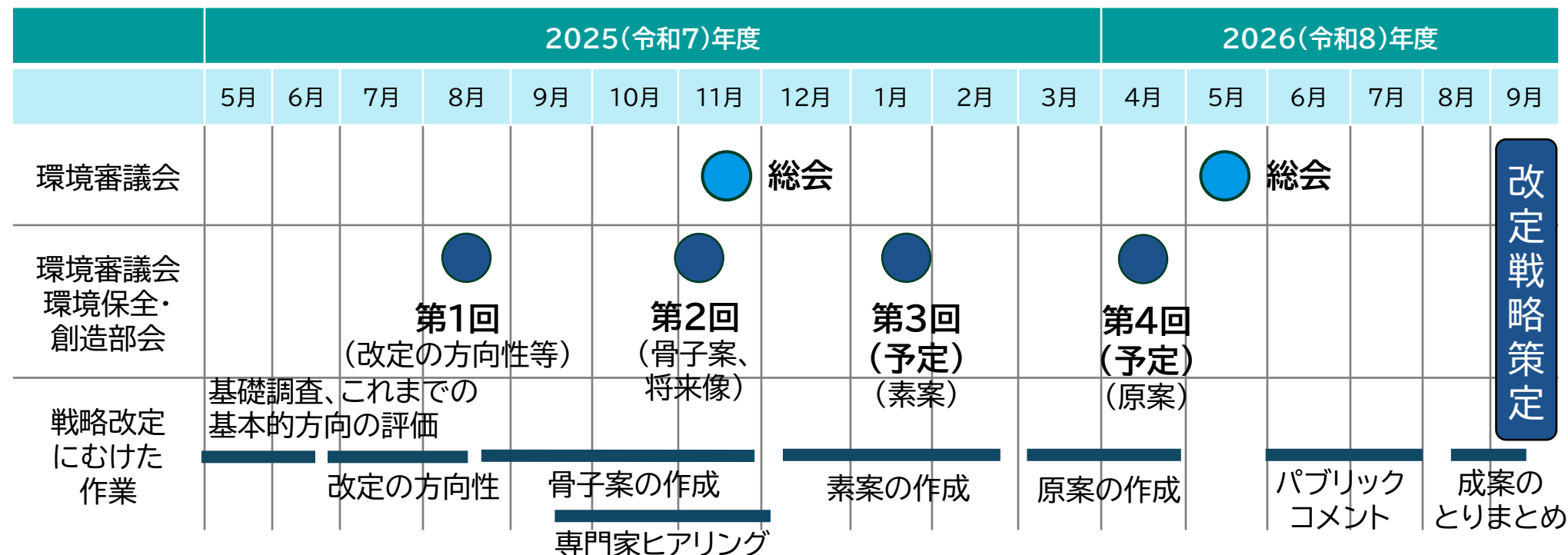
評価・見直し

「指標」に基づく進捗状況の継続的モニタリング

5.スケジュール



生物多様性ふくおか戦略改定スケジュール



	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2025(令和7)年 8月18日	2025(令和7)年 11月5日	2026(令和8)年 1月(予定)	2026(令和8)年 4月(予定)
検討 事項等	○国内外動向、市の状況 ○戦略のふりかえり ○改定の方向性	○改定戦略の骨子案 ○将来像	○改定戦略の素案	○改定戦略の原案

専門家ヒアリングについて

専門分野	対象者	ヒアリング事項	備考
環境法、 戦略全般	福岡大学 浅野 直人 名誉教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行戦略の策定を踏まえた改定にかかる意見や本市の戦略改定に際しての全般的な助言(他都市戦略の改定に携わられているご実績をもとに) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県環境審議会 ・ 北九州市環境審議会会長 ・ 現行戦略策定時の戦略策定検討委員会委員長
生態系	九州大学大学院 工学研究院 環境社会部門 林 博徳 准教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を生かした課題解決に関する対策の把握 ・ 消極層・無関心層の行動につながる普及啓発手法の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県環境影響評価専門委員 ・ アイランドシティはばたき公園管理運営等アドバイザー
防災	九州大学大学院 工学研究院附属アジア防 災研究センター 佐藤 辰郎 准教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨災害等への生物多様性分野からのアプローチについて、福岡市における課題や必要な対策の把握 ・ 福岡市の災害特性を踏まえた保全・活用が重要な自然資本の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業九州・沖縄地域 災害対策分科会 アドバイザー
都市計画	西日本短期大学 緑地環境学科 西川 真水 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性・生態系サービスの保全に最適な都市開発に向けた課題および必要な対策の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡市緑の基本計画検討委員会 副委員長 ・ 市役所本庁舎緑化整備事業提案評価委員
森林	九州大学大学院 農学研究院 環境農学部門 溝上 展也 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業生産活動が生態系サービスに与えるインパクトの把握や相乗効果の創出に向けた課題および必要な対策の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡市農林業振興審議会委員